



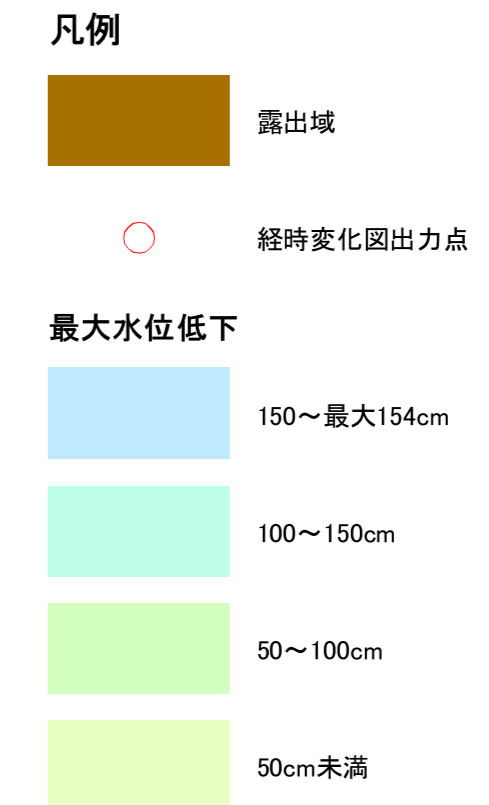
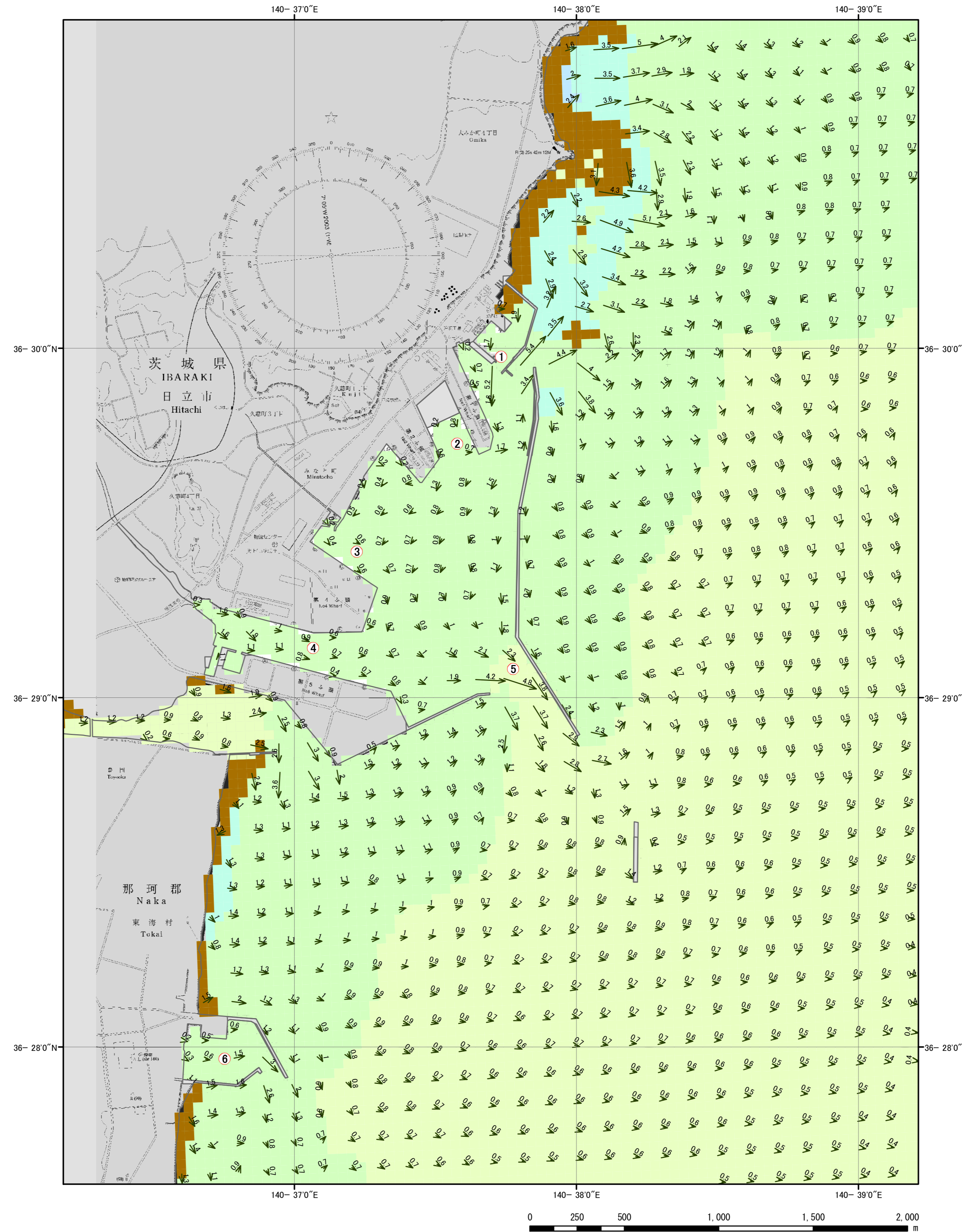
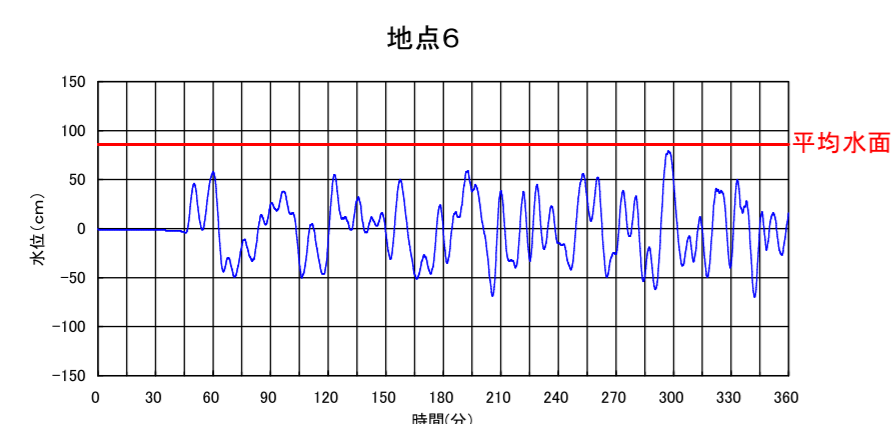
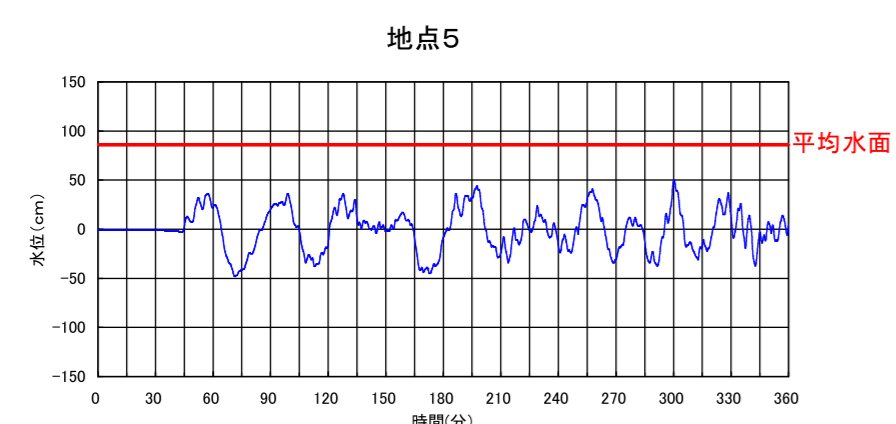
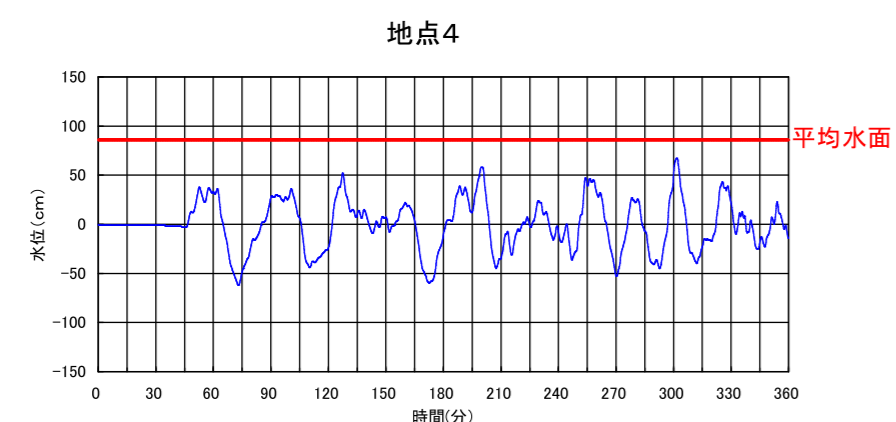
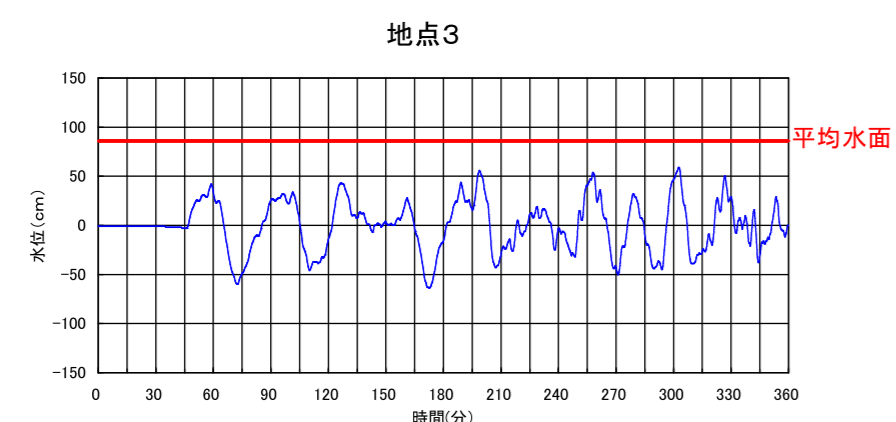
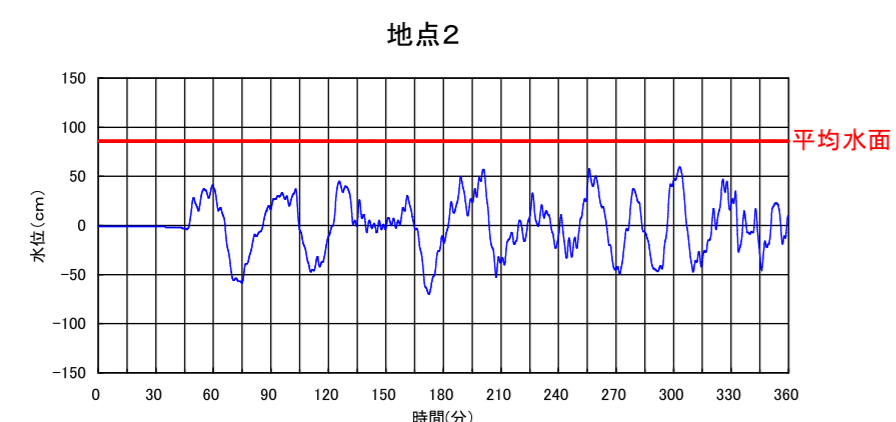
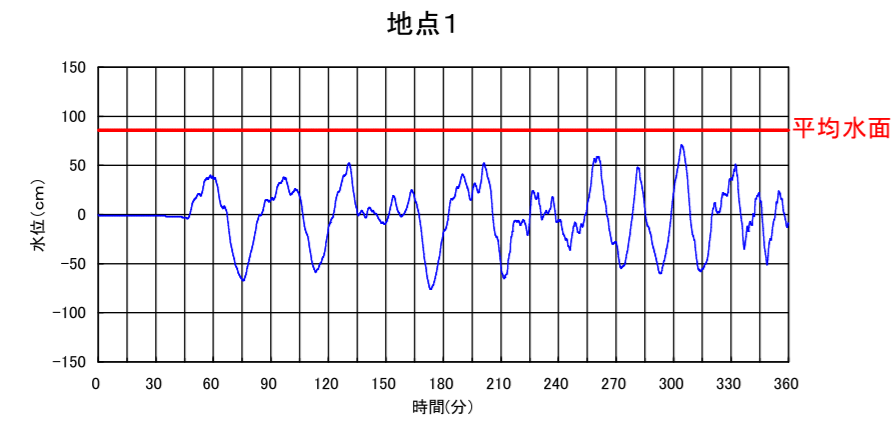
想定宮城県沖地震による日立港津波防災情報図（引潮）

計算条件：最低水面・50mメッシュ
隆起量：平均1cm(-1cm~-1cm)

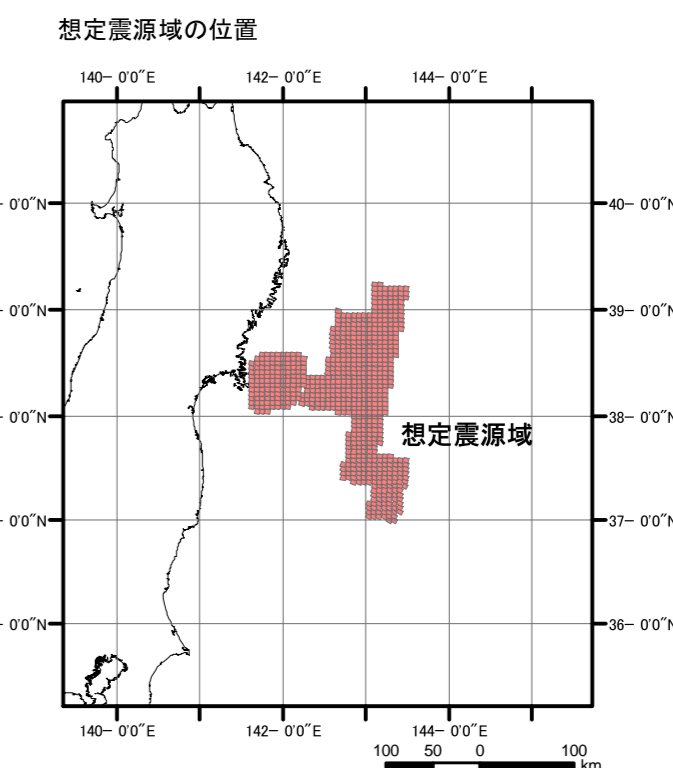
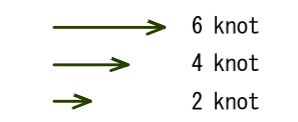
・津波は、震源の位置、規模、細かな地形の影響などにより、計算した津波と異なることがあり、過去には、今回の津波の計算より大きな津波が来たことがある。



経時変化図：図上の位置における津波の挙動を時系列で示す。



引潮時最大流(knot)



・本図は、中央防災会議「日本海溝・千島海溝周辺型海溝地震に関する専門調査会」で公表された断層モデルを使用しました。

・この図は発災時から6時間のシミュレーションを行い作成しています。
・海岸構造物は、地震・津波の影響を受けないものとして計算しています。
・最大流の矢符は、6時間のシミュレーション時間から50mメッシュ3*3個(150m*150m)の9個から最大のものを表示しています。
・表示されている流速矢符は津波による流向・流速を示しており、海潮流の要素は考慮されていません。
・津波の到達時刻は、水位が10cm上昇した時点を出しています。
・経時変化図(水位変動のグラフ)は最低水面を基準面として、6時間の津波の水位変動を表示しています。時間による潮汐の変化は考慮されておらず、津波は計算条件の基準面に収束します。
・経時変化図に記載されている赤線は、潮汐がないと仮定したときの海面(平均水面)を現しています。
・陸部の情報は海図から採用しています。
・計算に使用したデータは、海上保安庁海洋情報部のJ-EGG500、J-BIRD、沿岸の海の基本図地形データ及び海図を作成する際の基礎データ等を使用しています。

・この地図の作成にあたっては、国土地理院長の承認を得て、国土地理院発行の数値地図50mメッシュ(標高)を使用したものである。(承認番号:平15総使、第672号)

作成機関 : 海上保安庁
作成年月 : 平成19年3月(初版)